

里山雑木林と大河川河岸における大豆カメムシ類の動態把握



富山農総セ・農業研究所・病理昆虫課

背景

大豆カメムシ類の被害は、山際や雑草が繁茂する河川敷の近辺で多発することが多い。一方、本県の主要種であるホソヘリカメムシ（ホソヘリ）やイチモンジカメムシ（イチモンジ）の越冬場所などその生態は明らかではない。そこで、里山雑木林と大河川河岸にフェロモントラップを設置し、両種の誘殺消長から、大豆加害時期以外の生息場所などの生活史を明らかにする。

成果1 里山雑木林における発生消長

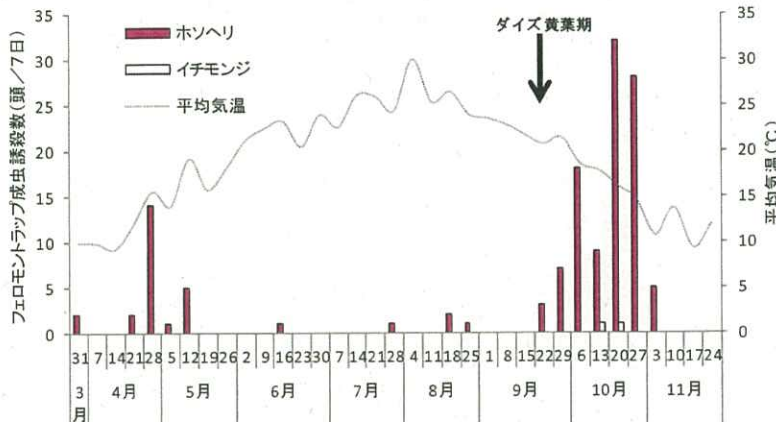


図1 フェロモントラップによる里山雑木林における大豆カメムシ類の誘殺消長(2014)

○優占雑木
スギ、ヒノキ、タケ、ミツバウツギなど

- ①イチモンジの誘殺はほとんど無い。
- ②ホソヘリは4月下旬～5月上旬と9月中～11月上旬に誘殺される。

成果2 大河川河岸における発生消長

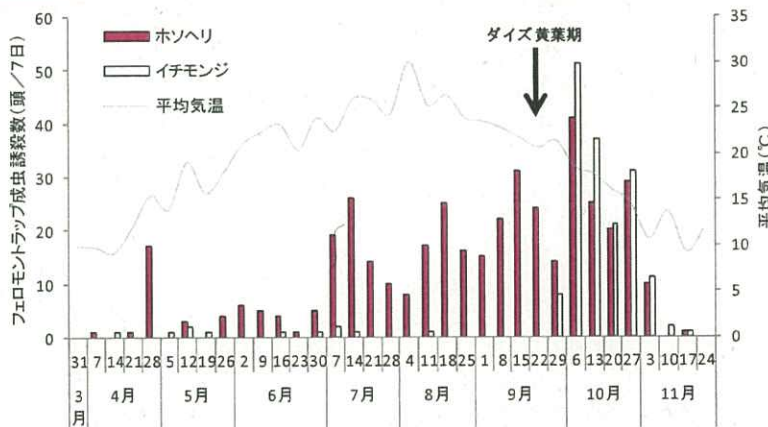


図2 フェロモントラップによる大河川河岸における大豆カメムシ類の誘殺消長(2014)

○優占雑草
ススキ、ヨシ、セイタカアワダチソウ、クズなど

- ③イチモンジは春～夏にかけて誘殺されるものの、その数は少なく、9月下旬～11月上旬に多数誘殺される。
- ④ホソヘリは春～夏にかけて誘殺され、イチモンジと同様に9月下旬～11月上旬の誘殺数が多い。

⑤イチモンジは大河川などの雑草が繁茂する地域で越冬し、ホソヘリはこれに加えて里山雑木林でも越冬する。両種とも大豆が黄葉期になると越冬地へ移動する。

⑥ホソヘリは雑草地でも世代を繰り返し、年間成虫発生回数は少なくとも年3回。

⑦ホソヘリ、イチモンジともに活動開始気温および活動終息気温は10℃前後。



ホソヘリカメムシ



イチモンジカメムシ



フェロモントラップ

留意点

山際や大河川周辺で大豆を栽培する場合は、大豆カメムシ類の発生動向を把握し、必要に応じて追加防除を実施する。

研究期間：2013～2017年度 作成：2017年3月